



レジ袋、本当に必要ですか?

生活に身近なレジ袋の使用削減を通じた地域の3R（リデュース・リユース・リサイクル）を推進するため、レジ袋を有料化する取組が全国で広がっています。

県内では、平成19年6月から仙台市で取組みが始まり、仙台区以外の地域では、宮城県が進める「みやぎレジ袋使用削減取組協定」により、塩竈市、多賀城市など仙台市周辺の9市町村が今年2月2日から取組が始まり、ほかの市町でも6月1日からのレジ袋有料化に向けて準備が進められています。

みやぎレジ袋使用削減取組協定とは

事業者、住民、行政の三者が、レジ袋の削減に協働して取り組んでいくために締結された協定で、小売業者はレジ袋の無料配布を原則として取りやめ有償提供する、住民団体は地域住民に対するマイバッグ持参の呼び掛けを行う、市町村は取組に関する広報などを行うといった役割を持っています。

なぜ有料化なの?

無料で配布されているレジ袋にお金を払うようにすること

で、買い物をする皆さまの意識を高めめます。

そして、マイバッグなどの利用を促し、レジ袋の削減につなげるのが、レジ袋有料化の大きな目的です。

レジ袋を減らすとどうなるの?

①石油資源の消費抑制
レジ袋は、石油から作られるプラスチック製品で、レジ袋1枚（10g・LLサイズ）の生産に石油約18.3ミリリットルが必要です。経済産業省「なつく、知つく3R」によると、1人当たり年間300枚のレジ袋を消費

しているというデータが出ています。市内で1年間に消費するレジ袋を生産するためには、石油約220キロリットル（ドラム缶換算1,100本分）が消費されていることとなります。

地球温暖化の抑制

レジ袋を製造するときや、廃棄されたレジ袋を焼却するときには、地球温暖化の原因となるCO2（二酸化炭素）が、レジ袋1枚当たり約60g排出されると言われています。

本市では、レジ袋によって1年間で約695トンのCO2が排出される計算になります。

レジ袋有料化意識調査

本市では、レジ袋有料化に関する消費者意識調査（調査期間2月26日～3月10日）を行いました。調査は公衆衛生組合員（自治会員）475名を対象に行い、366名から回答をいただきました。主な結果は次ページの通りです。

調査結果を集約すると、

①レジ袋が有料か無料かでお店を選ぶことは少ない。

②レジ袋削減のための有料化は市民に評価されている。

③現状では市民の半数近くがレジ袋をもらっている。

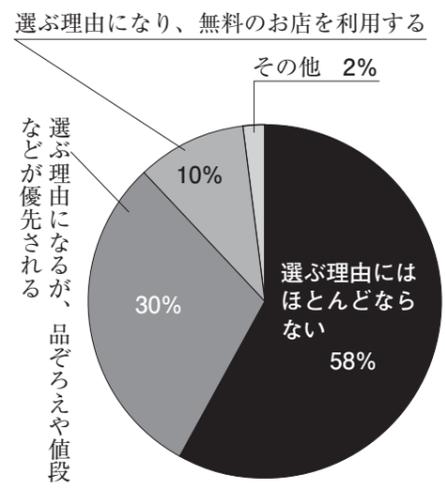


④レジ袋が有料化されればマイバッグ利用者が増えると思われる。

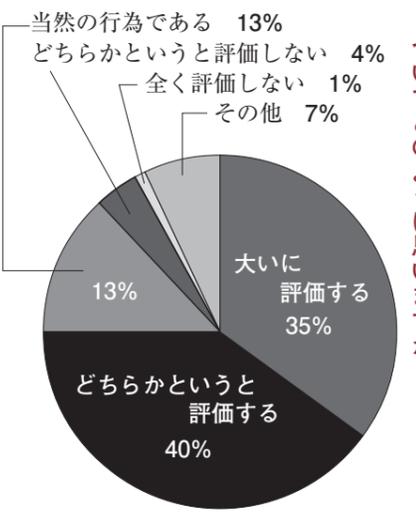
以上のことからも、本市でもレジ袋の有料化はその削減に有効だと考えられます。

レジ袋有料化調査結果

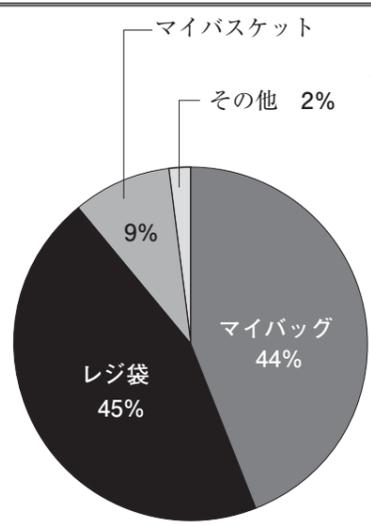
1 レジ袋の有料化はお店を選ぶ理由になりますか?



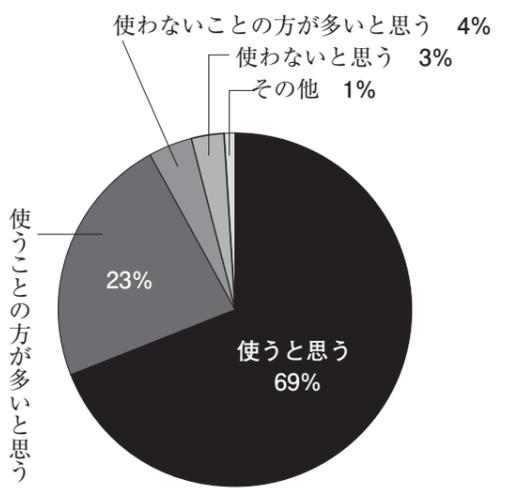
2 ごみの減量化・地球温暖化防止のため、小売業者などがレジ袋の有料化を実施し、ごみの減量化に取り組んでいます。あなたはごみの減量化などの取組についてどのように思いますか?



3 普段一番多く使用する買い物袋などは何ですか?



4 レジ袋が有料化になったら、マイバッグを使いますか?



6月1日から

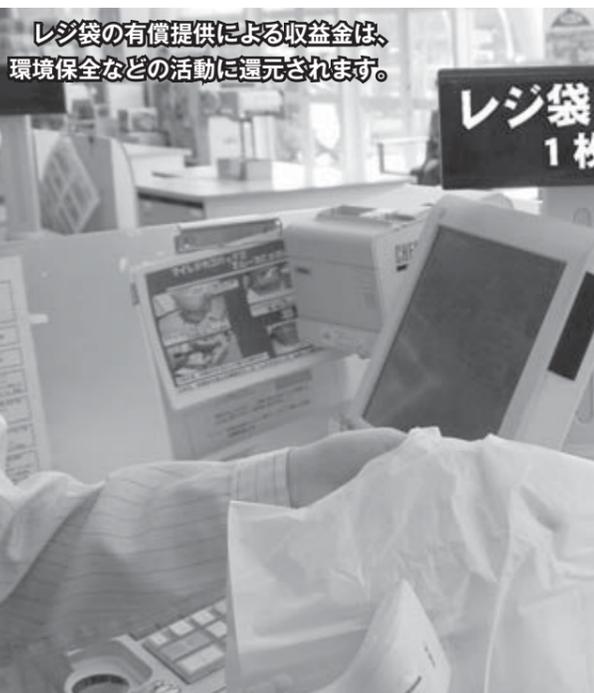
レジ袋の有償提供スタート!

買い物をするときは、**マイバッグを持参しましょう!**

本市では、意識調査結果や住民団体の皆さまとの意見交換会を踏まえ、「みやぎレジ袋使用削減取組協定」に参加し、レジ袋の有料化に取り組むことになりました。これにより、この協定に参加したみやぎ生協白石店・ヨークベニマル白石店の2店舗で、6月1日からレジ袋が有償提供（1枚3円）になります。

なお、今後も市では、有償提供実施店舗の拡大に努めていきます。

（同生活環境課 22-1314



レジ袋の有償提供による収益金は、環境保全などの活動に還元されます。